

## リスクマネージメント研修会に参加して

遠藤 登志子（千葉市）

日 時：2009年10月27日（火） 9時15分～15時

場 所：泉自然公園 講堂

参加者：指導員12名 一般20名

研修内容：

午前 9:15～12:15 千葉市防災普及公社による普通救命講習Ⅰ

午後 13:00～15:00 蔡 正雄氏による講義「自然観察における危険予知」

＜普通救命講習＞は「心臓や呼吸が止まった人に自分は何ができるか」という、  
あやふやになってしまっていたことに道順をつけてもらいました。

10年以上前に講習を受けましたが、もう役には立ちません。AEDも未経験の不安がありました。そんな時に声をかけていただき、参加しました。

救命処置の実技では、端に座っていたために、不慣れで不安な私からの練習でした。手順は ①反応確認 ②助けを呼ぶ ③気道確保 ④呼吸確認 ⑤人工呼吸⑥心臓マッサージ。1回目は助けを呼ぶのを忘れてしました。心臓マッサージは肘が曲がってうまくできません。練習は続き、2回目で少し慣れてきました。反応確認では千葉の自然に親しむ会代表のMさんの名前を連呼する方もいます。気道の確保ではモデルが人形だからなのでしょうか、鼻をつまみ、ひっぱり上げて講師さんに「それでは痛いですよ」と指摘を受ける場面もあって、皆に笑いが起きました。

AEDが加わっての練習も行われ、12時15分まで子どもの救命処置や止血法などにもおよんで充実した3時間の講習を終えました。

自然観察における危険予知の講義では、植物や鳥・  
昆虫の知識に優先して、参加者を安全に率することが  
第一だということを再認識しました。

私は、今年の9月下旬に自然観察指導員の講習を受けたばかりです。今は工夫されたコースを案内され、丁寧に教えてもらって観察会を満喫していますが、主催者の方々の安全への配慮があつてのことでした。

- ①雷は、予測回避できるから、保険の適用外。気象予報により察知することが大切。
- ②事故があった場合、主催者が「初めてで知らなかった」は許されない。
- ③危険は回避するか、対策をとるべき。「注意しましょう」という言い方でなく、具体的に行動がとれる言い方をすること。

などなど…、昼下がりの講義は眠気を寄せ付けない内容がびっしり詰まっていました。どんな時も安全が一番大切です。今後は、講師の蔡 正雄さんのおっしゃる「危険予知の感度」を少しずつ伸ばして観察会に参加しないといけないと思う、説得力あるお話をでした。

